様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６２０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１０２１４

研究課題名（和文）実践コミュニティによる看護教員の力量形成プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a competence-building programme for nursing teachers through communities of practice.

研究代表者
石塚　淳子（ISHIZUKA, JUNKO）

順天堂大学・保健看護学部・教授

研究者番号：５０３２９５２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：熟練看護教員を対象にインタビューを行い、力量形成過程を調査・分析した。熟練看護教員の潜在力を活用し、コミュニティ・オブ・プラクティスという看護教員の力量形成に有用な教育ニードを取り入れたプログラムを実施する計画であった。「看護教育実践を語る会（仮称）」を企画し、看護教員の力量形成プログラムの試案を作成した。しかし、コロナ禍により対面でのワークショップの開催が延期となった。よって研究対象者を日本国内だけでなく、交流の機会のあったフィンランドの初等教育の視察、看護教員へのインタビューを追加し、有用なプログラム開発への示唆を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本の看護教育において、これからの看護教員の教育力の向上のためには、諸外国の物真似ではない日本独自の社会的背景の中で発展してきた熟練看護教員の力量発達過程を活用したプログラムが有用である。そこで研究代表者が長年研究してきた研究の成果を活かし、教師教育や生涯教育の研究者らと協力して熟練看護教員の経験をライフヒストリー・アプローチで描き出しながら現役看護教員らによる“実践コミュニティ（経験から学ぶ場）”プログラムを試みる。

研究成果の概要（英文）：Interviews were conducted with skilled nursing teachers to investigate and analyse the process of competence building. The plan was to utilise the potential of skilled nursing teachers and implement a programme that incorporated the educational need for a community of practice, which is useful for nursing teachers' competence development. A 'Meeting to Discuss Nursing Education and Practice' (tentative name) was planned and a draft of a programme for nursing teachers' competence building was prepared. However, the face-to-face workshop was postponed due to the Corona disaster. Therefore, the research subjects were not only from Japan, but also from Finland, where there were opportunities for exchanges, and an observation tour of primary education and interviews with nursing teachers were added, which provided suggestions for the development of a useful programme.

研究分野：看護教育

キーワード：看護教員　ライフヒストリー　力量形成　実践コミュニティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、看護師養成の課程をもつ看護系大学・学部が急増し、それに伴い看護教員の不足と質の低下が大きな問題となっている。日本の看護教育において、これからの看護教員の教育力の向上のためには、諸外国の物真似ではない日本独自の社会的背景の中で発展してきた熟練看護教員の力量発達過程を活用したプログラムが有用である。そこで研究代表者が長年研究してきた研究の成果を活かし、教師教育や生涯教育の研究者らと協力して熟練看護教員の経験をライフヒストリー・アプローチで描き出しながら現役看護教員らによる“実践コミュニティ（経験から学ぶ場）”プログラムを試みる。

２．研究の目的

本研究は、我が国の看護師の不足の抜本的な対策として、長期的なビジョンの下、看護教員の質の向上を目指すものであり、既存のファカルティ・ディベロプメントでは成し得ない看護教員の力量形成に寄与する新しいプログラムを開発することを目的とする。

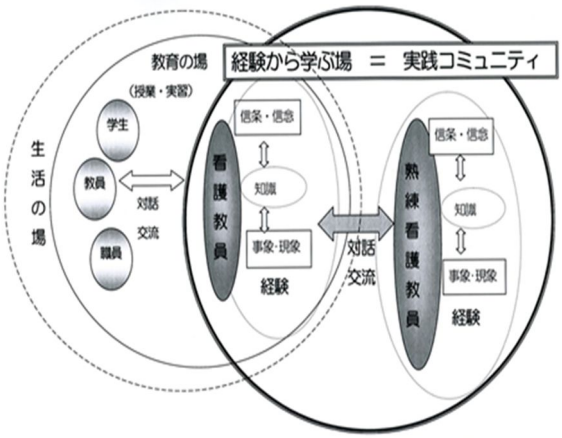

図　プログラム開発のイメージ「熟練看護教師の経験から学ぶ場づくり」

３．研究の方法

研究者らがこれまで取り組んできた研究成果を発展させ、熟練看護教員を対象にインタビューを行い、力量形成過程を調査・析する。また現在の看護教員に対するインタビューによって、どのような教育ニードがあるのかを明らかにすることで、熟練看護教員の潜在力を活用し、かつコミュニティ・オブ・プラクティスという看護教員の力量形成に有用な教育ニードを取り入れたプログラムを実施する。

４．研究成果

（１）フィンランドの基礎教育の視察とインタビュー

2019 年 3 月にフィンランドにて、看護教育の実情の視察を行った。看護教育の現状について説明を受け、実際に大学の施設及び授業風景の見学を行った。

また、小中一貫校への視察も実施した。フィンランドの教師は、医師や弁護士と並んで専門職として認められ、教養があり尊敬される職業として社会的にも認められている。したがって人気も高い職業であり、教師を目指す人は多く倍率も高い。

クウォッパヌンミ総合学校（Kuoppanummen koulukeskus ）の 2 人の教員（A 先生と B 先生）にインタビューを行った。クウォッパヌンミ総合学校はヘルシンキから北へ 400 キロメートル程 ヴィヒティ市ヌンメラという町にあり、生徒数は小・中学校合わせて 600 人程度で幼稚園も併設している。

A 先生は、影響を受けたというよりはリーダー的存在で教育改革などにも携わり、若い教員への指導に関心を持って活動している。B 先生は、教員になりたての頃は、授業を行う上での課題が多く、「補助教員のサポートで助けられた。授業を行う上で補助教員の存在は大きい」と話された。現在のサポート体制は、チューター制があり、チューターの教員が若い教員を指導している。また学校の中にソーシャルワーカーやカリキュラムを組んだり相談したりする専門家がいて体制が整っている。他の先生とも情報交換をする。B 先生は、「教員の能力を高めていくためには、教える科目についてよく知っていること。年齢が多様な人たちとコミュニケーションを取る。そうすると子どもが先生を信頼して学ぶということが起こる」、A 先生も大事なことは「他の先生たちと連携すること、研修のコースに参加すること」だと話された。　また問題解決は教員との連携が重要で、クウォッパヌンミ総合学校は同僚との信頼関係を作ることは難しくなく、教員同士のコミュニケーションのつながりが強いので、多くの問題はそれで解決されるということであった。

2 名の教員たちの授業を見学した。3 年生の英語の授業と 7 年生の国語の授業を見学することができた。教員が自由にしかも臨機応変に授業を展開し、生徒が伸び伸びと教室で参加している現状を知ることができ、看護教育は基礎教育の上に成り立っており、フィンランドの教育力の高さが世界から認められる理由について考える契機となった。

（２）フィンランドにおける看護教員のインタビュー調査

フィンランドの教員に対する力量形成プログラムの視察と実践コミュニティの視察の計画を

した。研究代表者である石塚の所属大学がフィンランドの看護大学との交流を行っていたことから、教育先進国であるフィンランドの教育事情の視察を行うこととした。

フィンランドの教育は、PISA（OECD 主催による国際学習到達度調査）で世界各国から注目された。国を挙げて教師の育成にも力を入れている。そこでフィンランドにおける看護教員たちの特徴を明らかにした。4 名の看護教員にインタビューを行い、逐語録をデータとし、質的帰納的に分析した。

結果として「教員であることの喜びと責任」「経験が活かされる看護教員の道へ自らがチャレンジ」「教員としての成長を支えた他者（同僚・上司）の存在」「様々な分野と協同する関係を築くことのできるコミュニケーション能力」「実務経験と専門の最新知識を統合する高い能力」「学生を指導する能力」「学生も教員も主体的」の 7 つのカテゴリーが導き出された。

日本の現在の看護教員の養成にフィンランドから学び取り入れることができることとしては、日本の教育制度や法律をすぐに変更するのではなく、参考にしたいこととして、フィンランドの看護教員の語りの中から得られた【教員としての成長を支えた他者（同僚・上司）の存在】【様々な分野と協同する関係を築くことのできるコミュニケーション能力】の大切さである。

せっかく実務経験を積んで看護教員としての職業を選んだのに、看護教員となってからの指導はその上司に任されているだけの場合が多く、組織主導の研修やプログラムは形骸化されつつあり、盛んにおこなわれているファカルティ・ディベロプメントの研修を受講したとしても「授業ができない、実習指導ができない、研究ができない」と看護教員としての成長がなかなかできない現状がある。その結果、看護教員になってもすぐにリタイヤせざるをえない、という問題が生じている。

これらの対策として、他者とのコミュニケーションを活かしたプログラムの開発が望まれる。筆者らは「コミュニティ・オブ・プラクティス（あるテーマに関する関心や問題を共有し、その分野の知識や技能を、持続的な交流を通じて深めていく人々の集団）」」の考え方が役立つ。

フィンランドの看護教員のインタビューから得られた結果を下記の図に示す。

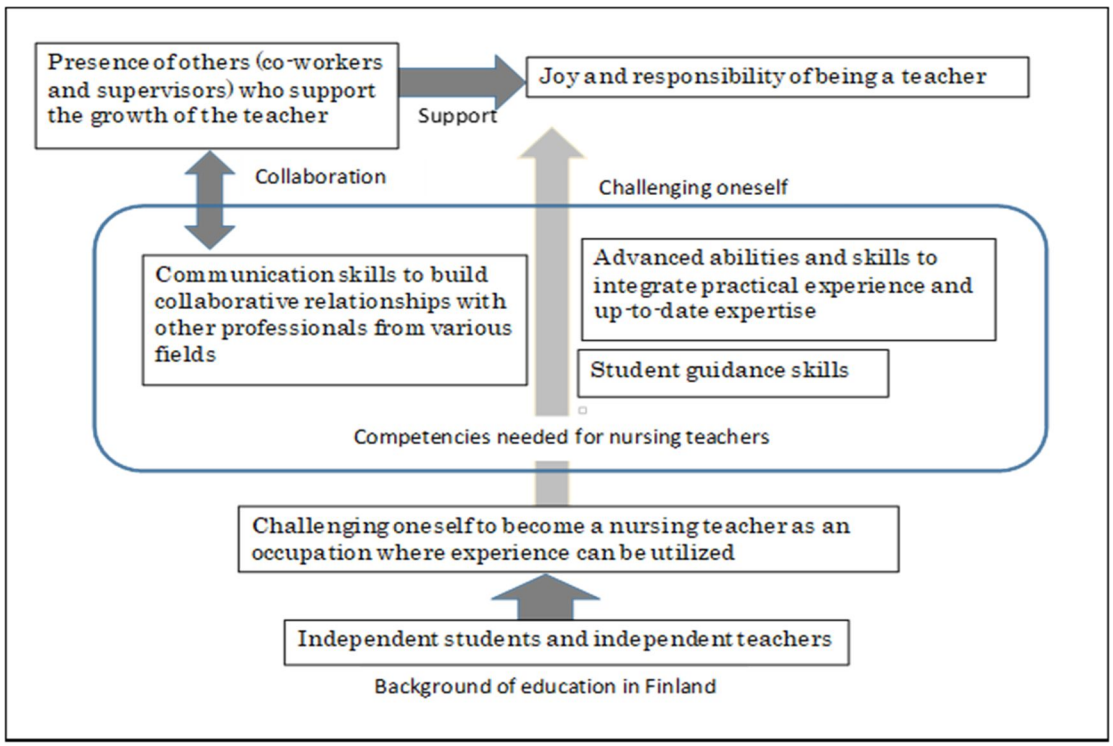

Figure 1 Structure of the driving force that supports Finnish nursing teachers' motivation

（3）若手の看護教員へのインタビュー

若手の看護教員にインタビューを行い、実際にどのような内容の実践で困っているのか、どのようなコミュニティを必要としているか、インタビューを行う予定であった。3 名程度の候補者を挙げてインタビューの実施を行う予定であったが、これも新型コロナウイルスの影響により、直接インタビューをするために出向く予定がキャンセルとなったため延期となった。

（4）ワークショップの開催

それまでの研究成果を活用し、第 1 回ワークショップ「看護実践を省察する」を企画した。プログラムの午前中は「基礎看護技術を再する」とし、順天堂大学特任教授の野村志保子先生を講師に迎え、順天堂大学の実習室で実際に体を動かしながら看護師の手と身体の使い方に注目した看護技術を検討する内容とした。午後は「実践を語りプロセスを聴きとる」とし、4 グループを予定し、数人のファシリテーターに依頼をし、看護実践を語り聴くという体験を通して、実践コミュニティの構築を試みることとした。2020 年の 3 月 12 日に実施する予定で参加者の募集を

始めたが、新型コロナウイルスにより、ワークショップの実施を見送らなければならなくなり、急遽、実施を延期することになった。

しかし、コロナウイルスの影響が収まらず、集合型の研修が困難となった。これでは考えていたプログラムの実施が難しくなるということで、急遽、内容を見直した。つまり集合型でなく、オンライン型の研修の計画を立案する必要性が生じた。ただし、オンラインではどうしても解決できないこととして、対面では容易であった看護技術を伝承していく、演習型のワークショップの内容を見直す必要が生じてきた。

次のステップとして、対面とオンラインのメリットを活かしたハイブリッド型の新しいプログラムを構築する必要がある。新しいプログラムの施行と評価に関しては、次の採択課題に継続して研究をつづけ、本課題の成果を活かしていきたいと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 石塚淳子、佐藤道子、渋江かさね	４．巻 8
２．論文標題 フィンランドのクオッパヌンミ総合学校の視察と教員へのインタビュー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 順天堂保健看護研究	６．最初と最後の頁 90ー95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Junko Ishizuka　Michiko Sato　Yukiharu Sasano　Kasane Shibue	４．巻 11
２．論文標題 Structure of the Driving Force That Supports Finnish Nursing Teachers’ Motivation	５．発行年 2023年
３．雑誌名 順天堂保健看護研究	６．最初と最後の頁 1－12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 石塚淳子、笹野幸春、佐藤道子
２．発表標題 フィンランドの看護教師のライフヒストリー
３．学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渋江　かさね (Sibue kasane) (10377707)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	笹野　幸春 (Sasano Yukiharu) (10809255)	順天堂大学・保健看護学部・助教 (32620)	
研究分担者	山崎　準二 (Ymazaki Junji) (50144051)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	
研究分担者	佐藤　道子 (Sato Michiko) (60410510)	順天堂大学・保健看護学部・非常勤講師 (32620)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関